

天国の母さんへ

佐藤 和代（長野県長野市／女性）

母さん、今日は五月九日です。元気なら貴女の百歳の誕生日ですね。おめでとうございませう。母の日と貴女の誕生日が重なる時もあり、毎年赤いカーネーションの花を贈りましたね。昨年は、生涯初めて母さんのいない母の日を迎え、本当に哀しかった、永遠の別れの実感がひしひしとこみ上げて、ただただ泣きました。あつという間の一年でしたが、今年の二月三日、一周忌を済ませましたよ。春があれば好きだったのに、その春を待たずに天国へ旅立った貴女。

昔、孫達と一緒に「鬼は外、福は内」と楽しく豆まきをした事が、つい昨日のように思い出されます。でも何故旅立つ別れの日を、二月三日にしたのかを、教えて欲しい。あの日あの一瞬、本当にあの一瞬、面会に行ったらハアハアと息苦しそうで、私は思わず、貴女に「辛かったら、もうそんなに頑張らなくてもいいよ。ずっと今まで、よく頑張つて来たものね。偉かったよね。」と言って頭をそつとなでたら、うつすら目を開けて、哀願するような眼差しで私を見てふつと微笑んでくれましたね。それから僅か二十分後の事です。百歳の誕生日も迎えられる様に頑張ると約束したのに、まさか本当に、さよならするなんて、思いもせませんでした。

毎日私が口癖のように、頑張れ頑張ればかり言っていたから、私の一言が嬉しかったのでしょうか。今でも、あの時頑張つてと言っていたら、まだ私の傍にいてくれたかしらと、ふと思えます。それから、貴女の墓石に、「千の風になって」と刻みました。歌詞のようにはいかず、お墓の前で泣いてしまっし、墓石を動かしては、そつと隙間から中を覗いて、貴女に会えて安心します。

今日は、貴女が亡くなって二度目の誕生日。お墓に真っ赤なカーネーションの花を供えました。母さん、百歳おめでとう。そして、私を産んでくれて、女手ひとつで一生懸命育ててくれて、本当に有難う。孫達を可愛がってくれてありがとう。いつまでも、貴女への感謝の気持ちをお忘れずに、貴女の歳まで生きれるように頑張ります。

母さんもどうか安らかに天国でお眠り下さい。
そして、千の風になって、家族を見守っていて下さいね。

